

第5回教育委員会協議会

〔高吾地域：日高村、佐川町、越知町、仁淀川町、津野町、梶原町、須崎市、中土佐町、四万十町〕

次第

- 1 開催日時 平成30年1月15日（月） 18:00～20:00
- 2 場 所 四万十町農村環境改善センター 多目的ホール
- 3 内 容
17:30～ 受 付

18:00～ 開 会

議 題

(1) 県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」の策定について

(2) 高吾地域の県立高等学校の現状、今後の状況について

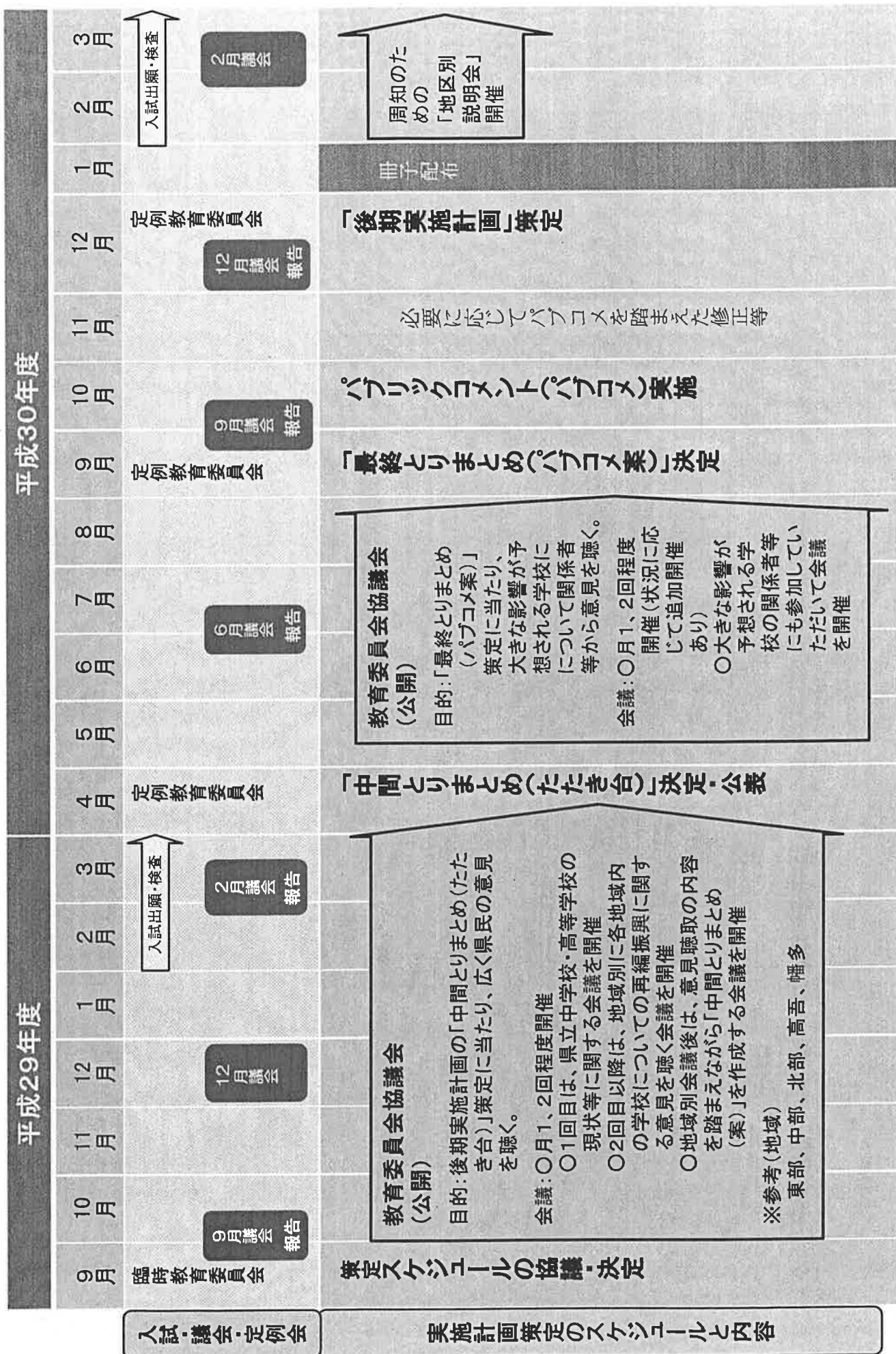
(3) 地域からの意見聴取
ア 佐川町

イ 四万十町

(4) 会場からの意見聴取

閉 会

県立高等学校再編振興計画 後期実施計画(H31～H35年度)策定スケジュール



入試・議会・定例会

実施計画策定のスケジュールと内容

津波浸水域の県立高等学校一覧

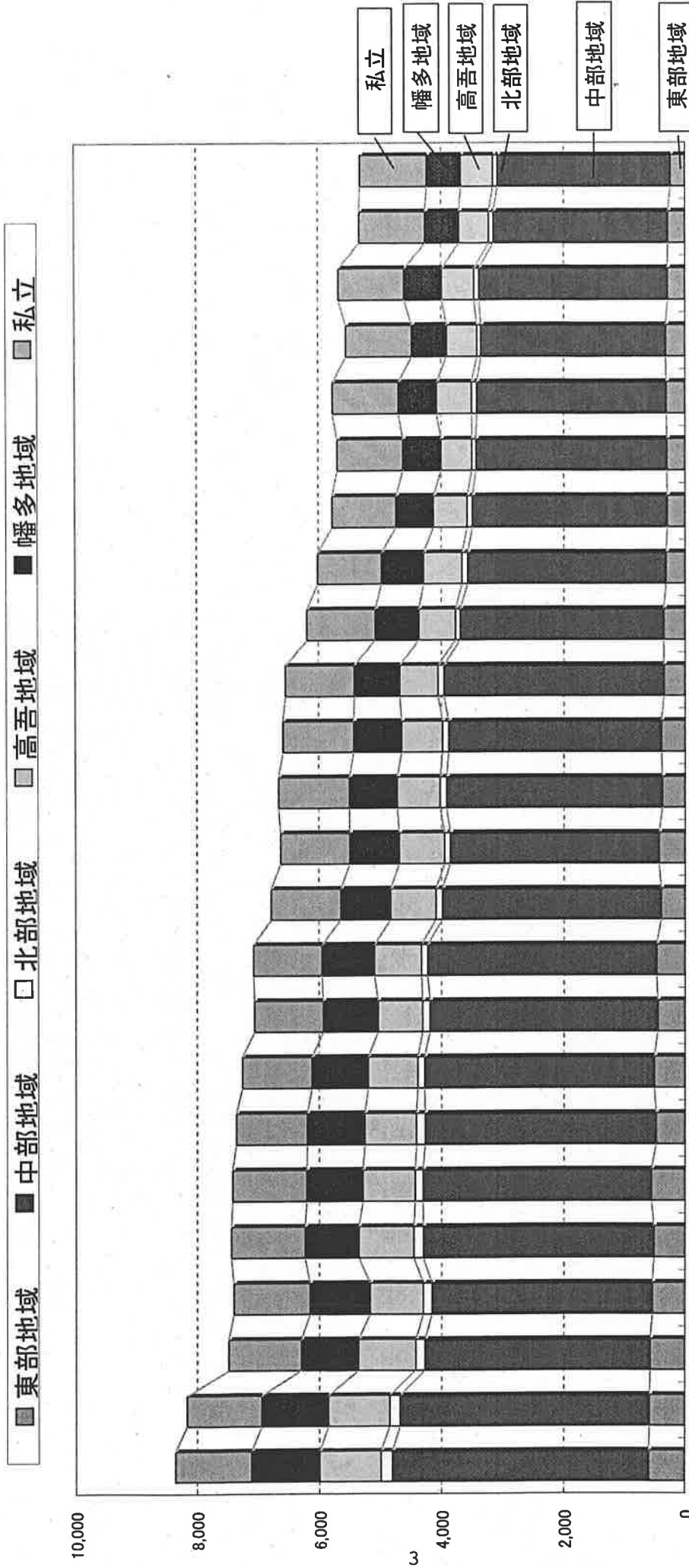
資料2

	市町村名	学校名	10mメッシュ 最大クラス(L2)の津波 堤防なしの場合 (H24.12.26南海地震対策配布データ)		校舎 構造・階数	避難場所	標高 (m)	広さ (㎡)	避難距離 (m)	避難時間 (分)
			浸水深 (m)	30cm津波 到達時間(分)						
1	安芸市	安芸	5m	57分	非木造 4階建	北倉屋上	23.5	840	—	—
2		安芸桜ヶ丘	5m	95分	非木造 4階建	安芸市総合運動場(補助グラウンド)	20	13000	200	10
3	香南市	城山	4m	39分	非木造 4階建	南倉屋上(地域住民は北倉屋上)	26	650	—	—
4	高知市	高知東	2m	190分	非木造 4階建	校舎3・4階	9	1290	—	—
5		高知南	3m	36分	非木造 4階建	校舎4階及び屋上	12.5	2320	—	—
6		高知工業	3m	47分	非木造 4階建	校舎3・4階及び屋上	14	3110	—	—
7		高知追手前	2m	134分	非木造 4階建	高知城・新館4階等状況に応じて ※右データーは高知城	44.4	2500	1000	15
8		高知丸の内	1m	191分	非木造 4階建	北倉2・3・4階	6.5	945	—	—
9		高知小津	1m	243分	非木造 6階建	校舎の4階以上の教室と6階の食堂(本館東)	15.1	1810	—	—
10	土佐市	高知海洋	8m	25分	非木造 5階建	近くの高台	40	400	500	8
11	須崎市	須崎	7m	28分	非木造 4階建	学校の裏山にある避難道を上って、山頂にある須崎市斎場	83	—	300	15
12	宿毛市	宿毛	7m	35分	非木造 4階建	つじ霊園	70	1000	1000	15
13	土佐清水市	清水	12m	11分	非木造 3階建	学校裏山または近くの高台 ※右データーは高台	43	50	125	10

地域別中学校卒業生数の推移

H15.3~H38.3 ただし、H30.3以降は推計

資料3



H15.3 H16.3 H17.3 H18.3 H19.3 H20.3 H21.3 H22.3 H23.3 H24.3 H25.3 H26.3 H27.3 H28.3 H29.3 H30.3 H31.3 H32.3 H33.3 H34.3 H35.3 H36.3 H37.3 H38.3

学区	H15.3	H16.3	H17.3	H18.3	H19.3	H20.3	H21.3	H22.3	H23.3	H24.3	H25.3	H26.3	H27.3	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3	H32.3	H33.3	H34.3	H35.3	H36.3	H37.3	H38.3
東部地域	594	581	570	535	512	550	474	504	447	468	390	426	372	385	348	352	309	289	294	305	313	287	280	297
中部地域	4,208	4,096	3,688	3,614	3,782	3,748	3,787	3,766	3,736	3,750	3,587	3,423	3,539	3,489	3,604	3,334	3,257	3,204	3,137	3,114	3,036	3,094	2,862	2,837
北部地域	182	170	153	146	162	133	149	116	118	106	104	94	103	100	94	79	92	83	67	86	66	83	79	79
高吾地域	1,007	1,003	931	867	889	848	836	805	776	760	741	740	701	670	623	595	619	541	497	563	489	517	481	523
幡多地域	1,117	1,091	949	994	891	931	953	930	903	865	817	806	777	778	739	702	686	609	620	620	566	615	550	546
私立	1,252	1,227	1,180	1,239	1,200	1,204	1,158	1,136	1,127	1,123	1,142	1,137	1,166	1,163	1,135	1,130	1,049	1,042	1,070	1,075	1,074	1,055	1,067	1,083
合計	8,360	8,168	7,481	7,395	7,436	7,414	7,357	7,257	7,057	7,072	6,781	6,626	6,658	6,585	6,543	6,192	6,012	5,768	5,685	5,763	5,543	5,661	5,319	5,307
H25.3卒業生比																								
▲ 155 ▲ 123 ▲ 196 ▲ 238 ▲ 589 ▲ 769 ▲ 1,013 ▲ 1,096 ▲ 1,018 ▲ 1,120 ▲ 1,238 ▲ 1,120 ▲ 1,462 ▲ 1,474																								
▲ 155 ▲ 32 ▲ 73 ▲ 42 ▲ 351 ▲ 180 ▲ 244 ▲ 83 ▲ 78 ▲ 220 ▲ 118 ▲ 342 ▲ 112																								

平成27年度以降の入学数又は在籍者数の実態（学校別一覧）

資料4

白抜き：最低規模を下回っている ■：定員に対して40人以上下回っている □：定員の半分以下

学校名	学科(科)名	入学定員	最低規模(該当に●)			備考
			H27 入学者	H28 入学者	H29 入学者	
室戸	総合	80	63	50	42	
安芸	普通	120 (60)	83	83	95	H28年度までは160人
安芸桜ヶ丘	工業(環建) [土木]	20	9	6	9	
	工業(環建) [建築]	20	6	4	11	
	工業(環工)	40	11	3	4	H30年度から募集停止
	商業(情ビ)	40	21	14	14	
城山	普通	80	61	40	46	
山田	普通	160	110	121	128	
	商業(商業)	40	29	26	30	H29年度から単位制
嶺北	普通	80	26	22	29	
	農業(農総)	40	40	41	40	
	農業(畜総)	40	32	28	36	
	農業(森総)	40	22	24	21	
	農業(環土)	40	27	31	35	
	農業(食ビ)	40	35	37	33	
	農業(生総)	40	40	32	40	
高知東工業	工業(機械)	40	31	40	35	
	工業(機械シ)	40	28	30	24	
	工業(電子)	40	26	24	27	
	工業(電機)	40	24	30	29	
岡豊	普通	240	240	240	239	
	普通(芸術コース)	40	23	25	24	
高知東	普通(体育コース)	40	33	40	40	
	総合	200	200	198	200	
高知南	看護(看護)	30	24	24	30	
	普通	200 (100)	169	194	200	H35年度統合完了
高知工業	国際(国際)	40 (20)	28	35	36	
	工業(機械)	40	40	40	40	
	工業(電気)	40	35	34	35	
	工業(情技)	40	37	34	38	
	工業(工化)	40	35	40	40	
	工業(土木)	40	40	40	40	
	工業(建築)	40	40	40	40	
	工業(総テ)	40	36	37	39	
高知追手前	普通	280	265	279	252	
	吾北	40	23	23	19	
高知丸の内	普通	140	141	141	140	
	音楽(音楽)	10	9	7	10	
高知小津	普通	240	226	241	240	
	理数(理数)	40	24	29	40	
高知西	普通	240	236	240	240	
	外国語(英語)	40	40	41	40	H35年度統合完了
伊野商業	商業(キャリア)	160	145	139	147	
春野	総合	160	136	148	137	
高岡	普通	80	42	37	40	H29年度から単位制
	水産(海洋)	80	51	58	39	
須崎工業	船舶職員養成課程	[10]	[4]	[4]	[2]	
	工業(機械系) [機械]	20	31	40	12	H31年度統合完了
	工業(機械系) [造船]	20	25	17	13	※H29年度から学科改編
	工業(電情系) [電気]	20	22	19	9	
	工業(電情系) [電情]	20			10	
	工業(シ工系) [機制]	20	18	15	2	
須崎	工業(シ工系) [住環]	20			18	
	普通	120	64	97	92	H31年度統合完了 ※H29年度から学科改編
佐川	普通	80	52	47	35	
窪川	普通	80	34	41	26	
橋原	普通	80	56	32	43	
四万十	普通	40	13	13	9	
	普通(自環コース)	40	7	7	4	
大方	普通	80	38	32	32	H29年度から全日制

(注1) 安芸、高知南、中村の()内の数字は、併設中学からの最大進学者の生徒数。
 (注2) 高知海洋高校船舶職員養成課程の[]は内数
 (注3) 嶺北、橋原、四万十の合格者数は、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。

学校名	学科(科)名	入学定員	最低規模(該当に●)			備考
			H27 入学者	H28 入学者	H29 入学者	
幡多農業	農業(園シス)	40	24	38	40	
	農業(アグリ)	40	27	28	30	
	農業(グリーン)	40	24	22	17	
	農業(コーディネート)	40	22	34	31	
中村	普通	200 (70)	184	161	200	
	西土佐	40	22	11	9	
宿毛工業	工業(機械) [機械]	20	17	14	17	
	工業(機械) [自動車]	20	20	18	18	
	工業(建設) [土木]	20	19	20	19	
	工業(建設) [建築]	20	20	20	17	
	工業(電気)	40	19	19	16	
宿毛	工業(情技)	40	27	40	33	
	総合	120	106	89	82	H28年度までは160人
清水	普通	80	51	47	47	
県立計		5090	4004	4032	4007	

(注4) 清水の合格者数は、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	最低規模(該当に●)			備考
			H27 入学者	H28 入学者	H29 入学者	
中芸	普通(昼)	40	23	26	11	
高知北	普通(昼)	80	80	74	80	
合計		120 [0]	103	100	91	

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	最低規模(該当に●)			備考
			H27 在籍者	H28 在籍者	H29 在籍者	
中芸	普通(夜)	40 [4]	8	17	18	
高知北	普通(夜)	40 [4]	134	124	101	
	看護(夜) (衛生) (技能連携)	40			4	H30年度から募集停止
合計		120 [8]	142	141	123	

(注1) 成人の[]は内数

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	最低規模(該当に●)			備考
			H27 在籍者	H28 在籍者	H29 在籍者	
室戸	普通	40 [4]	11	11	17	
山田	普通	40 [4]	38	32	29	
高知東工業	工業(機械)	40 [4]	33	40	34	
	工業(機械)	40 [20]				
高知工業	工業(電気)	40 [20]	87	81	70	
	工業(土木)	40 [20]				
	工業(建築)	40 [20]				
高岡	普通	40 [8]	27	42	44	
須崎	普通	40 [4]	25	23	17	H31年度に統合完了
佐川	普通	40 [8]	25	21	22	
大方	普通	40 [4]	28	26	21	
宿毛	普通	40 [4]	38	32	25	
清水	普通	40 [4]	19	21	19	
県立計		520 [124]	331	329	298	

(注1) 成人の[]は内数

学校名	学科(科)名	最低規模(該当に●)			備考
		H27 在籍者	H28 在籍者	H29 在籍者	
高知北		427	412	438	
大方		78	78	64	
合計		505	490	502	

1 前期実施計画からの継続検討事項

- 中芸高校、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校の3校の将来的な在り方を検討する必要がある。
 - ・安芸高校：南海トラフ地震への対応のため、適地への移転を検討する。
- 中村高校西土佐分校：2年連続して入学者が20人に満たない状況になった場合は、その翌年からの募集停止を検討する。
- 宿毛高校：南海トラフ地震による津波への対応のため、適地への移転の可能性を含め、将来の学校の在り方を検討していく。
- 清水高校：南海トラフ地震による津波への対応のため、高台への移転を検討する。

2 「県立高等学校再編振興計画」で定めた適正規模に関する検討事項

(1) 本校

- 〔記載内容〕過疎化が著しく近隣に他の高等学校がない学校。不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等に柔軟な対応をするための支援体制を整えた学校については、特例として1学年1学級(20人)以上を最低規模として維持する。
- 〔現状課題〕**中芸高校**：本年度下回る (H29年度：11人、H28年度：26人、H27年度：23人)
四万十高校：本年度下回る (H29年度：13人、H28年度：20人、H27年度：20人)

(2) 分校

- 〔記載内容〕2年連続して入学者が20人に満たない状況になった場合、その翌年からの募集停止を検討する。※「入学者が20人に満たない状況が3年間で2度ある」から基準を緩和
- 〔現状課題〕**吾北分校**：本年度下回る (平成29年度入学生19人〔H28:23人、H27:23人〕)
西土佐分校：2年連続下回る (平成29年度入学生9人、平成28年度入学生11人)

(3) 併設型中高一貫教育校

- 〔記載内容〕東部、中央部、西部の3地域での配置を維持する。
- 〔現状課題〕**県立安芸中学校**の志願者が減少し、生徒確保が課題となっている。
 ※平成29年度：定員60人、志願者36人、入学者35人

(4) 総合学科の学校

- 〔記載内容〕生徒数の減少等により複数の系列を置くことが困難な学校については、生徒数や地域の状況も踏まえつつ必要に応じて普通科への改編も検討する。
- 〔現状課題〕**室戸高校**の入学者が減少し、現在の4系列の維持が難しくなっている。
 ※平成29年度：定員80人、入学者42人
 ※現在の系列：文理総合系列、IT・アート系列、生活福祉系列、機械技術系列

(5) 定時制(夜間部)

- 〔記載内容〕最低規模については、様々な学びを保障するため、「1学年1学級10人程度以上」から「学校全体の生徒数を20人以上」に緩和し学校の維持に努める。
- 〔現状課題〕**室戸高校**：3年連続下回る (H29年度：17人、H28年度：11人、H27年度：11人)
中芸高校：3年連続下回る (H29年度：18人、H28年度：17人、H27年度：8人)
須崎高校：本年度下回る (H29年度：17人)
清水高校：2年下回る (H29年度：19人、H28年度：21人、H27年度：19人)

前期実施計画で明記した学校の在り方に係る現在の状況（H29.10末現在）

	学校名	前期実施計画で明記した学校の在り方	平成29年10月末現在の状況
1	須崎工業高校	<ul style="list-style-type: none"> 地域の工業高校として、ものづくりや資格取得の取組や地域と連携した取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 それぞれの科の特色を生かし、実習による技能の向上に努め、工業技術者の育成を図りながら、将来、本県の産業を担う人材を育成する。 須崎高校と統合することで適正規模を維持した新たな学校を設け、高吾地域における拠点校とする。統合後の学校は現地に置く。 須崎高校との統合を見据えた学科改編を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のニーズに応じる取組を継続して実施し、地域に貢献している。 ものづくりを通じた防災減災活動が評価され、平成29年度、<u>文部科学大臣表彰（学校安全）</u>を受賞している。 入学者数（入学定員：H27・28年度は160人、H29年度から120人）は、平成27年度96人、平成28年度91人、平成29年度64人である。 造船部は、<u>ソーラーボートの競技大会</u>において、スラロームでは5連覇、周回レースでは4連覇を達成している。 進路保障に努め、<u>就職内定率100%、進学決定率100%</u>を毎年、<u>実現</u>している。 なお、就職については、過去3年間の平均すると県内46%、県外54%であり、高吾地域への就職は、就職全体の17.5%である。 平成31年4月に須崎総合高校として開校。一期生としての卒業となる学年が平成29年度に入学。 これまでの伝統や強みを生かし、さらに充実した教育内容として発展させることをねらいとして、平成29年度から工業に関する学科を<u>3科6専攻（機械系学科〔機械専攻・造船専攻〕、電気情報系学科〔電気専攻・電子情報専攻〕、システム工学系学科〔機械制御専攻・住環境専攻〕）</u>に学科改編。
2	須崎高校	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な進路希望に対応できるカリキュラムを生かして、基礎学力の定着と進路実現を可能にする取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 須崎工業高校と統合することで適正規模を維持した新たな学校を設け、高吾地域の拠点校とする。南海トラフ地震による津波への対応を踏まえて、統合後の学校は須崎工業高校の敷地に置く。 須崎工業高校との統合を見据え、総合学科から普通科に学科改編を行う。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 統合後も維持し、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域に対する<u>防災プロジェクトチームを中心とした防災減災活動</u>をはじめ、系統的・計画的な防災教育をキャリア教育の視点で実践している。なお、こうした取組が評価され、平成28年度、<u>内閣総理大臣表彰（安全功労者）</u>を受賞している。 進路については、過去3年間の平均は、<u>進学が8割強（半数が4年制大学）、就職が2割弱（内7割が県内、3割が県外）</u>である。なお、<u>国公立大学への進学者</u>は、H26年度11人、H27年度7人、H28年度9人である。 入学者数（入学定員120人）は、平成27年度64人、平成28年度97人、平成29年度92人である。 平成31年4月に須崎総合高校として開校。一期生としての卒業となる学年が平成29年度に入学。 <u>1年生から大学進学クラスを設け</u>、3年間のロードマップ（指針）に基づいた大学進学に向けた学力向上のための系統的な学習を実践している。 平成29年度から<u>カヌー一部が運動部活動の強化推進校Bに指定</u>されている。 学習指導の充実により、さらに大学進学等の進路実現につながる教育内容とすることをねらいとして、平成29年度に総合学科から<u>普通科（2年次からコース制〔文理・教養〕）</u>へ学科改編。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により3年間で卒業できる制度（<u>三修制</u>）を導入している。 平成31年4月に須崎総合高校として開校。 在籍生徒数（在籍定員160人）は、H27年度25人、H28年度23人、<u>H29年度17人</u>である。
3	佐川高校	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域や中学校との連携を強化するとともに、基礎学力の定着や社会性の育成を図り、多様なニーズをもつ生徒へのきめ細かい支援の取組等を通じて生徒の進路を保障する。これらの取組を通じて、生徒数の確保に努める。 過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校であり、特例として1学年1学級（20人以上）を最低規模として維持する。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定時制については、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「<u>いのち輝け さくら咲くプロジェクト</u>」と名付けた地域課題解決学習を系統的・計画的に実施している。 平成29年度からは、<u>佐川高等学校協働本部を設置</u>し、学習内容の改善、発展に努めている。 「<u>佐高検定チャレンジ支援制度</u>」によって、検定試験の費用支援を実施している。 「<u>佐高ボランティアバンク</u>」において、生徒の地域での活動を促進している。 平成29年度から<u>ソフトボール部が運動部活動の強化推進校Bに指定</u>されている。 上位層への補習や学習支援員制度などを活用した下位層への個別支援の取組を充実させている。 進路については、過去3年間の平均は、<u>進学が約7割（内2割が4年制大学）、就職が3割（内7割が県内、3割が県外）</u>である。なお、<u>国公立大学への進学者</u>は、H26年度4人、H27年度2人、H28年度1人である。 入学者数（入学定員80人）は、平成27年度52人、平成28年度47人、平成29年度35人である。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により3年間で卒業できる制度（<u>三修制</u>）を導入している。 加力補習が必要な生徒には、1時間早く登校させ、補習を実施している。 在籍生徒数（在籍定員160人）は、H27年度25人、H28年度21人、H29年度22人である。

	学校名	前期実施計画で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況
4	窪川高校	<ul style="list-style-type: none"> 地域や中学校との連携を強化するとともに、コース制によるきめ細かい指導など、多様なニーズをもつ生徒への支援体制を強化する取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校であり、特例として1学年1学級（20人以上）を最低規模として維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生が地域のイベント等に参画する場づくりや中学校との部活動交流を積極的に取り組んでいる。 毎年、<u>四万十町長・教育長・行政関係者との意見交換会を高校2年生が実施</u>している。 地域行政と連携して地域の教育文化水準を高めるように努めている。 平成 28 年度から四万十町が<u>公設町営塾</u>を開設し、学校内でのインターネット学習教材を活用した取組と併せて、基礎学力の定着と学力向上の取組を推進している。 2 年次から 2 つのコースを設け、<u>大学進学コース</u>では、年間を通じた進学補習や個別指導等の実施や関西研修（大学訪問）等を通して、進学する意識と学力の向上に努めている。 <u>地域リーダー養成コース</u>は希望者も多く、産業に関する科目（農業・商業・家庭）を関連付けながら学び、それぞれの特性を生かした実習や地域課題研究等を通じて、将来地域社会で活躍できる人材育成のためのプログラム開発と、資質・能力の育成に努めている。 文部科学省の「<u>遠隔教育</u>」の指定を受け、同一町内の四万十高等学校と<u>遠隔教育</u>を実践し、<u>専門科目の講座開講を推進</u>している。 進路については、過去 3 年間の平均は、<u>進学が 7 割（内半数が 4 年制大学）、就職が 3 割（内 7 割が県内、3 割が県外）</u>であり、なお、年々、進学の割合が高くなっている。また、<u>国公立大学への進学者は、H26 年度 3 人、H27 年度 3 人、H28 年度 1 人</u>である。 入学者数（定員 80 人）は、平成 27 年度 34 人、平成 28 年度 41 人、平成 29 年度 26 人である。
5	梶原高校	<ul style="list-style-type: none"> 連携型中高一貫教育を継続するとともに、伝統芸能の継承の取組等の地域との連携や多様なニーズをもつ生徒への支援体制を強化する取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 過疎化が著しく、近隣に他の高校がない学校であり、特例として1学年1学級（20人以上）を最低規模として維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 梶原中学校との連携型中高一貫教育を推進しており、<u>中学校との授業連携</u>はもちろん、<u>中高一貫合同会議等</u>を開催し、交流を深めている。 梶原で学び生活していくことをテーマとした「<u>YELL プロジェクト</u>」による地域との連携や、<u>津野山神楽</u>の継承・実践などを行っている。 <u>月 1 回の生徒支援委員会の開催</u>や SC の週 2 日対応等により、生徒理解、初期対応に努める体制を整えている。 平成 29 年度は<u>梶原中学校卒業生の 9 割が梶原高校に進学（H27 年度 75%、H28 年度 75%、H29 年度 89%）</u>し、併せて<u>部活動を目的に遠方からも 10 人を超える進学者が入学</u>するなどして、40 人を超える生徒を確保している。 <u>野球部の活性化</u>を通して、生徒募集に努めている。 平成 29 年度から<u>アーチェリー部が運動部活動の強化推進校 B に指定</u>されている。なお、アーチェリー部は、毎年、団体等がインターハイ（全国大会）に出場している。 習熟度別学習による学力の定着・向上に努めている。 進学補習や学習支援員等による個別支援を充実させ、<u>大学進学に向けた指導体制</u>を整えている。 <u>国公立大学への進学者は、H26 年度 2 人、H27 年度 3 人、H28 年度 2 人</u>である。 入学者数（定員 80 人）は、平成 27 年度 56 人、平成 28 年度 32 人、平成 29 年度 43 人である。
6	四万十高校	<ul style="list-style-type: none"> 連携型中高一貫教育を継続するとともに、自然環境学習や多様なニーズをもつ生徒への支援体制を強化する取組、地域と連携した生徒育成の取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 過疎化が著しく、近隣に他の高校がない学校であり、特例として1学年1学級（20人以上）を最低規模として維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大正・北ノ川・十川中学校との連携型中高一貫教育を推進し、<u>中高の授業交流や「ふるさと学習発表会」</u>を行っている。 四万十町の支援を得て、<u>ソフトボールの専門的指導者を招聘</u>し、中学校との定期的な合同練習、小・中学校を対象としたソフトボール教室を実施している。 <u>小・中学校 PTA と高校 PTA ・同窓会との懇談会</u>や<u>地域おこし協力隊と連携</u>した取組を実施している。 自然環境コースでは、研究機関や森林組合と連携して、フィールドワークや林業体験実習を実施している。 スケジュール手帳を活用した学習計画づくり等に取り組んでおり、<u>公設町営塾</u>は、この学習計画を同級生と共に行動に移す場として役立っている。また、インターネット学習教材を活用した取組や、1・2 学年では毎日終 SH 等で学び直し学習等を行い、学力向上につなげている。 毎月の生徒支援会や高大連携教育事業による研修会等を行い、開発的・予防的な生徒支援を実施している。 文部科学省の「<u>遠隔教育</u>」の指定を受け、同一町内の窪川高等学校と<u>遠隔教育</u>を実践し、<u>専門科目の講座開講を推進</u>している。 進路については、過去 3 年間の平均は、<u>進学が 5 割（内半数が 4 年制大学）、就職が 5 割（内 7 割強が県内、3 割弱が県外）</u>である。なお、<u>国公立大学への進学者は、H26 年度 1 人、H27 年度 0 人、H28 年度 0 人</u>である。 入学者数については、普通科（定員 40 人）は、平成 27 年度 13 人、平成 28 年度 13 人、<u>平成 29 年度 9 人</u>。普通科自然環境コース（定員 40 人）は、平成 27 年度 7 人、平成 28 年度 7 人、<u>平成 29 年度 4 人</u>である。

高知県教育長 様



平成29年12月8日

高知県立須崎高等学校PTA会長

須崎総合高等学校全日制普通科の進学拠点の指定について

平成31年度からスタートする須崎総合高等学校全日制普通科については、高吾地域の進学拠点としての指定を望みます。

高知県西部において、進学希望生徒を多数抱える高等学校は、高知西高等学校より以西は中村高等学校です。両校の中間地点としての高吾地域にも進学の拠点校が必要と考えます。平成26年10月「県立高等学校再編振興計画」には、「高吾地域の拠点校として、大学進学等にも対応できる学力を保証する」とありますが、県教委からは具体的な学校のビジョンが示されていないように感じます。

現在の須崎高等学校では、教育課程の工夫や補習授業の充実等、進学にも力を入れていただいておりますが、県が指定する6校と同様に、入学式前の3月にテストを実施したいと願っていたものの、断られたということも聞いております。実績等は、他の進学校にはまだまだ及ばないということではありますが、総合学科から普通科として、そして新しい学校としてスタートするに当たって、県をあげて進学校としての位置づけや施策を期待します。そうすることで、保護者や中学生への須崎総合高校への期待はますます高まると思います。

地元国公立大学だけでなく、難関とされる大学への進学が可能となれば、月額の定期代など保護者の負担が軽くなるとともに、往復3時間の通学時間は充実した部活動も行うことができます。

高知市内へ行かなくても、希望する難関大学や専門学校へ合格できる高校、また、再編振興計画に示された目標を実現できる高校となるよう、下記のことを要望します。

記

1 進学拠点（全日制普通科）としての指定

高知県西部において、大学進学希望生徒を多数抱える高等学校は、高知西高等学校より以西は中村高等学校である。中間地点としての高吾地域にも大学進学の拠点としての指定をお願いしたい。また、高知市内進学校と同等の教育内容や施策をお願いしたい。

地域や保護者・中学生は、「須崎総合高校普通科は大学進学を目指す高校」という印象をもっており、地域の期待を実現できる学校になるようお願いしたい。

2 きめ細やかな支援ができる教員数の確保

大学進学を希望する生徒だけでなく、学習が苦手な生徒や部活動に熱心に取り組みたい生徒などにも十分支援でき、きめ細やかな指導が行えるよう教員数の確保をお願いしたい。

再編振興計画での地域（現・旧市町村）別中学校卒業生数の推移（H30.3～H38.3は推計）

地域	高校	現市町村名	旧市町村名	H.19.3	H.20.3	H.21.3	H.22.3	H.23.3	H.24.3	H.25.3	H.26.3	H.27.3	H.28.3	H.29.3	増減	H.30.3	H.31.3	H.32.3	H.33.3	H.34.3	H.35.3	H.36.3	H.37.3	H.38.3			
高	佐川	日高(加茂)	日高(加茂)	64	47	61	52	44	51	50	49	61	40	50	▲9	41	45	40	39	26	38	37	34	38			
		佐川町	佐川町	141	153	108	125	109	104	88	110	98	98	103	109	▲11	98	112	94	88	108	76	88	86	88		
		越知町	越知町	49	45	71	51	47	47	39	44	44	44	51	33	10	43	40	34	31	38	36	30	29	37		
		仁淀川町	池川町	13	20	13	6	10	6	10	11	10	22	25	17	14	6	20	11	5	12	9	6	11	9	13	
			吾川村	23	14	21	17	13	17	13	23	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		高	仁淀川町	仁淀村	22	18	18	18	10	17	23	20	20	18	21	20	▲2	18	11	16	14	11	16	9	14	8	
				計	312	297	292	269	233	253	220	245	246	246	232	226	▲6	220	219	189	184	192	172	175	172	184	
		吾	須崎	須崎市	須崎市	218	204	186	201	176	168	202	189	167	181	134	12	146	128	125	104	135	126	137	103	117	
				津野町	葉山村	30	43	47	46	32	32	23	38	39	39	27	25	0	25	36	27	25	26	24	32	40	28
				中土佐町	中土佐町	63	56	55	61	58	66	66	48	49	41	41	40	8	48	38	36	36	38	24	32	32	41
大野見村	12				19	15	11	15	12	5	16	11	6	11	6	9	▲3	6	8	3	5	11	2	8	6		
地	須崎			計	323	322	303	319	281	277	296	291	266	255	208	17	225	210	191	170	210	176	209	181	192		
				梶原町	48	30	34	31	36	38	39	22	29	22	22	27	▲1	26	23	23	21	25	25	21	21	27	
域	梶原			津野町	東津野村	28	26	27	15	21	24	25	20	20	18	25	▲12	13	17	15	16	13	21	14	10	11	
				計	76	56	61	46	57	62	64	42	49	40	52	▲13	39	40	38	37	38	46	35	31	38		
	窪川			四万十町	窪川町	105	113	129	99	102	121	118	112	95	100	101	▲23	78	102	87	73	98	69	77	78	85	
				大正町	37	39	26	41	33	30	30	20	32	26	32	23	▲4	19	28	26	15	12	17	9	8	14	
四万十	十和村	十和村	36	21	25	31	20	17	23	18	19	11	13	1	14	20	10	18	13	9	12	11	10				
		計	73	60	51	72	53	47	43	50	45	43	36	▲3	33	48	36	33	25	26	21	19	24				
全体	高吾地域計	高吾地域計	高吾地域計	889	848	836	805	726	760	741	740	701	670	623	▲28	595	619	541	497	563	489	517	481	523			
		H29との増減	H29との増減	266	225	213	182	103	137	118	117	78	47	0	0	▲28	▲4	▲82	▲126	▲60	▲134	▲106	▲142	▲100			
		公立計	公立計	6,079	6,053	6,045	5,969	5,771	5,795	5,482	5,331	5,354	5,290	5,275	▲352	4,923	4,829	4,590	4,495	4,566	4,346	4,473	4,133	4,102			
		国公立計	国公立計	6,236	6,210	6,199	6,121	5,930	5,949	5,639	5,489	5,492	5,422	5,408	▲346	5,062	4,963	4,726	4,615	4,688	4,469	4,596	4,252	4,224			
		私立計	私立計	1,200	1,204	1,158	1,136	1,127	1,123	1,142	1,137	1,166	1,163	1,135	▲5	1,130	1,049	1,042	1,070	1,075	1,074	1,065	1,067	1,083			
全体	県内計	県内計	7,436	7,414	7,357	7,257	7,057	7,072	6,781	6,626	6,658	6,585	6,543	▲351	6,192	6,012	5,768	5,685	5,763	5,543	5,661	5,319	5,307				

地域からの意見聴取

ア 佐川町

イ 四万十町

会場からの意見聴取